

ユニオンファンド 月次レポート

第 107 号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2017年10月4日作成

MONTHLY TOPIC

「どんなファンドがいいのだろう？」

中身が腑に落ちること

「どんなファンドを買ったらいいの？」という前回の月次レポートの続きです。

銀行預金は元本が保証されており、万一その銀行が危機に陥っても、預金保険という仕組みを通じて返ってくるのが基本です。どこに貸し出しているかなどの開示は無し。「まあ任せてください」ということです。

しかし投資信託には元本の保証がありませんから、どんなところにどのように投資しているのかをご自身で理解し納得していることが必要です。難しすぎて理解できないなら投資は見送った方がいいでしょう。わからないものに投資すると、基準価額（ファンドの値段）が下がった時に後悔する可能性が増します。逆に、投資しているものが長期的には上がると信じられるなら、基準価額が下がった時は喜んで買い増しすることができます。少なくとも、いつか必ず上がると信じて待つことが可能となります。これは長期的な成果を大きく分けますから、細かい技術的な話の前に、ぜひ押さえておかれるといいと思います。

純資産は増えているか？ 基準価額は上がっているか？ 相性は？

長期の財産づくりをするうえで重要な尺度として、純資産総額（ファンドが運用している資産の時価評価額）の推移も加えておきたいと思います。スタート当初こそ販売促進策が効いておカネが集まるものの、その後は減り続けているというファンドは大変多いです。純資産総額が減り続けるのは、基準価額が上がったら利益確定の売り、下がったら失望売りが続いてきたからです。もちろん、市場の動きにうまく乗って短期的に利益を得ることが目的であるなら、「儲かった、売った、さようなら」でかまいません。しかし、長期の財産づくりをしようと思ったら、それでは困るはず。多くの人に支持され着実に資産を増やしているファンドを探してみましよう。

最後に、当然ながら運用成績も重要です。いくら中身がよくわかり納得できるファンドであっても、最終的には値上がりしていなくては意味がありません。数年程度では実力はわかりませんから、設定後ある程度の年月を経ている、現在までどんな値動きをしてきたかを見ることができるとも、ファンド選びには必要です。あと、相性というのもあります。見かけがよくてすごそうなファンドでも、持っていてハラハラドキドキするものは長続きしません。その点は、いい結婚相手を探すのと似ているかもしれません。まずは試しにデートをしてみるのも手です。ちょっと買って様子を見るのです。

ホームページの「コラム」“コスト<運用成績<信頼感”にも掲載していますのでご覧いただければ幸いです。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

ユニオンファンド運用状況

(2017年9月末現在)

基準価額

24,985 円

純資産総額

57 億 59 百万円

期間別騰落率(%)

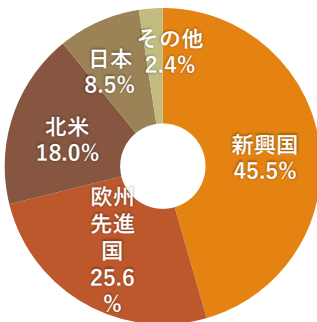
1 ヶ月	3.12%
6 ヶ月	10.00%
1 年	25.60%
3 年	23.13%
5 年	100.14%
設定来	149.85%

複利年率(%)

10.77%

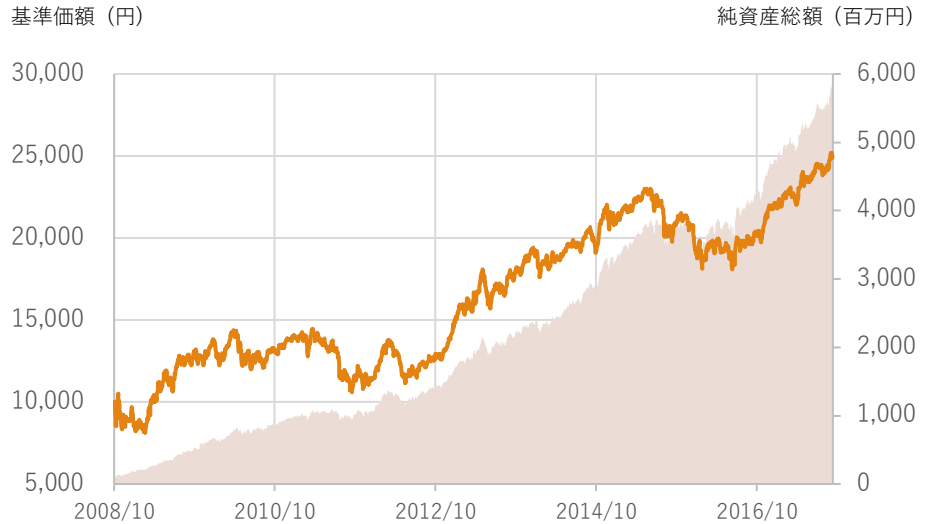
*「複利年率」とは設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。「複利年率」は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率
(2017年8月末現在)

基準価額と純資産総額の推移



組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	7.2%	5.6%
キャピタル F	欧米	13.7%	3.3%
ハリス F	欧米	22.4%	6.2%
コムジェスト・ヨーロッパ F	欧州	4.5%	3.7%
コムジェスト・エマージング F	新興国	38.0%	2.1%
現金等	-	14.3%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

2017年9月の市場動向と運用状況

投資環境と基準価額の推移

米国と北朝鮮の対立が激しさを増す中、月初こそ警戒ムードが強まりましたが、次第に戦争ぼっ発への不安はやわらぎ、株価は世界的に上昇しました。為替市場では、軟調だったドルが反発する一方で円が下落しました。予想以上に市場が強かった背景にあるのは世界経済と企業業績の好調ですが、以下のとおり少し大きな動きもありました。

米国では、9月のFOMC（連邦公開市場委員会）で予想通り政策金利が据え置かれました。また、これも予想されていましたが、中央銀行にあたるFRBが保有している債券額の削減が決まりました。具体的には、10月以降償還期限が来た債券の再投資額を段階的に減らしていくというものです。

月末にはトランプ政権から減税案の大枠が発表されました。柱は法人税の大幅引き下げ（35%から20%へ）と、個人所得税の簡素化（税率を7段階から3段階に）などです。米国の景気と企業業績にとってプラスになる可能性があるため、株式とドルが買われる一因となりました。

昨年11月には、減税を掲げたトランプ候補が大統領に当選したことで、市場は大いに盛り上がりましたが、その後のホワイトハウスの混乱や、財源確保の柱と思われたオバマケア改廃法案の度重なりとん挫などを受け、減税への期待はすっかり消えた状態にありました。今回の発表を受け、投資家は半信半疑ながらも実現の可能性を考慮し始めています。為替市場では、前述のとおり金融政策が引締め気味に傾くことと、財政政策が景気刺激的になりそうなことを受けて、セオリー通りのドル買いが進みました。

こうした中、ユニオンファンドは値上がりし、設定来の高値を更新しました。世界の株式市場が揃って上昇したことと、為替が円安に転じたことが寄与しました。もっとも、組入比率が最大の新興国市場がやや頭打ちだったこともあって、世界の市場全体よりも上昇率は小幅にとどまりました。

運用の状況

大きな調整もないままじり高傾向をたどったため、買い付けは見送りました。月末時点の組入比率は85.7%で、8月末と同水準となっています。

今後の見通しと運用方針

北朝鮮問題は、一触即発の状態が改善したわけではないと思われます。もちろん、対話の道が完全に消えたわけではなく、市場関係者は最終的には武力行使以外の決着の可能性が高いと見ているようです。是非そうあってほしいのですが、過去にはちょっとしたきっかけで大きな戦争が始まった例も数多く、警戒ムードが再度強まる可能性は残っていると考えています。

全体の組入比率の目標は据え置きますが、ファンド別の割合は若干変更する方針です。新興国株は足元のドル反発でやや軟調ですが、利益成長率の高まりなどを考慮して、今後積み増しを進めていく考えです。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

さわかみファンド

基準価額の推移



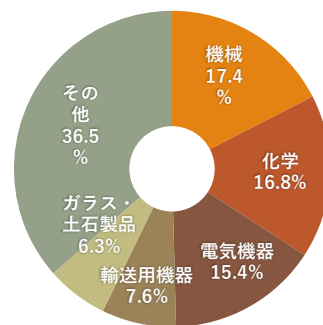
国別構成比



組入銘柄トップ 10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 プリヂェストーン	4.9%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
2 日本電産	4.6%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
3 花王	3.3%	日本	化学	トイレペーパー首位
4 ダイキン工業	3.3%	日本	機械	エアコン世界首位
5 TOTO	3.0%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器首位
6 国際石油開発帝石	2.8%	日本	鉱業	石油メジャー
7 信越化学工業	2.7%	日本	化学	塩ビ・シリコンエポキシ世界大手
8 トヨタ自動車	2.6%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
9 浜松ホトニクス	2.4%	日本	電気機器	光検出器の世界的企業
10 デンソー	2.2%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー
上位 10 銘柄	31.7%		現金等	12.4%

業種別構成比



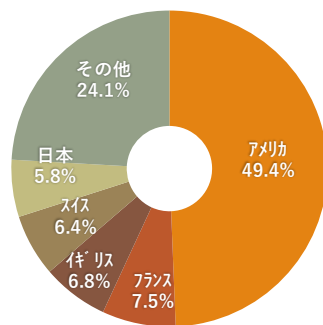
※ 業種：東証 33 業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 9 月末現在>

キャピタル F (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラス Z)

基準価額の推移



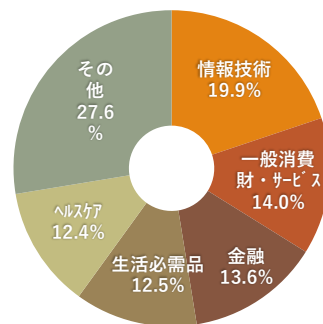
国別構成比



組入銘柄トップ 10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 Microsoft	2.6%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピューター・ソフト
2 Incyte	2.5%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品パイプ
3 ASML	2.4%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
4 Visa	2.3%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード
5 TSMC	2.2%	台湾	情報技術	半導体メーカー
6 Alphabet	2.0%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社
7 AIA	1.8%	香港	金融	生保・金融サービス
8 Pernod Ricard	1.6%	フランス	生活必需品	アルコール飲料、食品
9 CME	1.6%	アメリカ	金融	先物等の国際的取引所
10 Nestle	1.5%	スイス	生活必需品	世界最大の食品飲料会社
上位 10 銘柄	20.5%		現金等	5.8%

業種別構成比



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 8 月末現在>

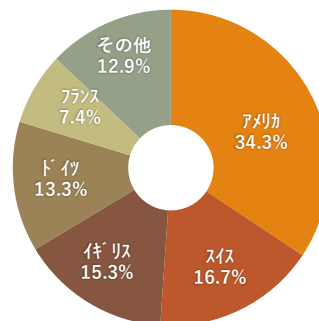
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ハリスF (ALAMCO ハリス グローバル バリュースト株ファンド 2007)

基準価額(分配金込み)の推移



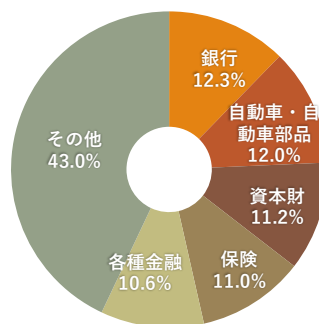
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ 10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 DAIMLER	5.6%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
2 GLENCORE	5.4%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引
3 CREDIT SUISSE	5.1%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
4 BNP PARIBAS	4.9%	フランス	銀行	フランス大手銀行
5 ALLIANZ	4.7%	ドイツ	保険	総合保険大手
6 CNH INDUSTRIAL	4.2%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー
7 JULIUS BAER	3.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク
8 GENERAL MOTORS	3.4%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ3の一角
9 GENERAL ELECTRIC	3.4%	アメリカ	資本財	航空機エンジン、発電機等
10 GRUPO TELEVISIVA	3.3%	メキシコ	メディア	放送局
上位10銘柄	43.8%		現金等	2.9%

業種別構成比 (マザーファンド)



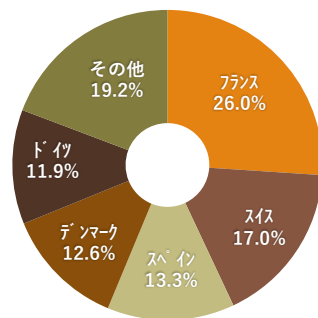
※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 8 月末現在>

コムジェスト・ヨーロッパF (ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA)

基準価額の推移



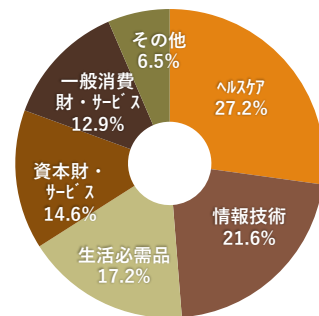
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ 10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 INDITEX	6.5%	スペイン	一般消費財・サービス	ファッションメーカー
2 AMADEUS	6.0%	スペイン	情報技術	旅行予約システム
3 ESSILOR	4.7%	フランス	ヘルスケア	光学製品
4 COLOPLAST-B	4.4%	デンマーク	ヘルスケア	人工肛門世界大手
5 DASSAULT SYSTEMES	4.3%	フランス	情報技術	欧州大手 3D ソフト会社
6 SARTORIUS STEDIM	4.1%	フランス	ヘルスケア	ウイルス除去フィルター
7 WIRECARD	4.1%	ドイツ	情報技術	オンライン決済
8 AB FOODS	4.0%	イギリス	生活必需品	食品製造・衣料小売
9 ASSA ABLOY	3.8%	スウェーデン	資本財・サービス	鍵等のセキュリティシステム世界最大手
10 L'OREAL	3.6%	フランス	生活必需品	化粧品世界最大手
上位10銘柄	45.6%		現金等	5.3%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 9 月末現在>

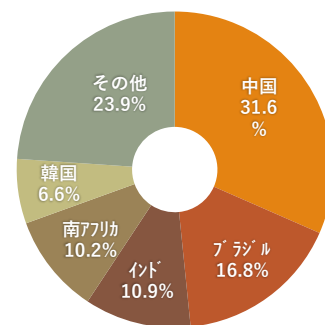
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

コムジェスト・エマージングF (ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンド SA)

基準価額の推移



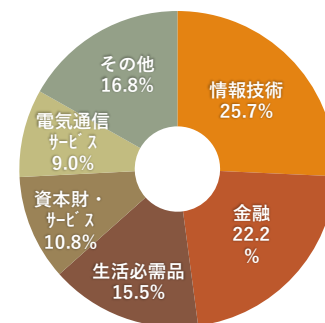
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 TSMC ADR	4.9%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2 CHINA LIFE	4.1%	中国	金融	生保国内最大手
3 POWER GRID OF INDIA	3.8%	インド	公益事業	電力関連 (送電網)
4 INNER MONGOLIA YILI	3.7%	中国	生活必需品	乳製品国内大手
5 MTN	3.5%	南アフリカ	電気通信サービス	携帯電話
6 NETEASE ADR	3.4%	中国	情報技術	オンラインゲーム
7 BAIDU ADR	3.4%	中国	情報技術	検索エンジン世界2位
8 PING AN INSURANCE	3.2%	中国	金融	保険大手
9 SAMSUNG LIFE	3.2%	韓国	金融	生保
10 BB SEGURIDADE	3.0%	ブラジル	金融	保険大手
上位10銘柄	36.2%		現金等	2.3%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年9月末現在>

ショートコメント

キャピタルグループのユニークな運用体制

1931年創業という老舗で、運用会社としては世界最大級のキャピタルグループ。株式関係のアナリストだけで150人以上を抱えるという人材の豊富さは大きな魅力です。なぜなら、ユニオンファンドの運用は、企業の成長が株価上昇の原動力だという考えに基づいているからです。短期的な株価変動をとらえて利益を上げるのではなく、「成長する企業に投資する」ことによる長期の株価上昇を重視していますから、投資先企業の分析は最も重要です。それを担うアナリストがこれほどの数もいるというのは、なんとも心強いことです。

ただ数が多いというだけではありません。企業を深く分析し、最も魅力があると思う銘柄をファンドマネージャー(以下FM)に勧めます。ただし言いつばなしでは不十分で、FMがなるほどと納得し買ってくれ、株価が上がって初めて最高の評価が得られる仕組みなのだそうです。これは調べるのも勧めるのも真剣になります。

ファンドの運用についても、一つのファンドをいくつかに分けて複数のFMが担当するというユニークな体制を敷いています。一人ではどうしても見落とししてしまう分野でも、複数いるからカバーが可能となりますし、各FMが得意分野から選りすぐりの企業を選別することもできる仕掛けです。

こうした様々な工夫の結果、運用成績に好不調のブレがあまりないことが特徴の一つです。安心して長期間保有するのに適したファンドと言っていいでしょう。

(運用責任者 久保田徹郎)

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

NOTICE

業務管理部からのお知らせ

取引残高報告書について

今回、「平成 29 年 7 月～9 月」の期間中にお取引があったお客様を対象に、郵送にてご報告しています。

※ 口座に残高があるお客様で、前回の「取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合には、1 年毎に「取引残高報告書」にてご報告いたします。

「お取引の明細と預り金の残高明細」の見方

記載対象期間内にお取引された明細および作成日現在のお預り金の残高です。

※ 最後に表示される「お預り金」につきましては、“作成日現在”でユニオンファンドの買付が完了していない場合にはその金額が、完了している場合には「0 円」が表示されます。

「お預り証券等の残高明細」の見方

お預り証券等の残高明細（イメージ）

銘柄名	数量	評価金額合計 [a]	運用損益[a-b+c]	円
	基準価額	投資金額 [b]		
(預り区分)	評価金額	受取金額 [c]		
(決算日)	取得単価	個別元本		

※a,b,c 及び運用損益は全預り通算で算出

数量	ユニオンファンドの残高口数です。
基準価額	作成日（平成 29 年 9 月 29 日）現在の基準価額です。
評価金額	作成日現在の残高の「評価金額」です。 （「評価金額」＝「数量」×「基準価額」÷10,000 で算出されます。）
取得単価・個別元本	これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。
評価金額合計 [a]	評価金額の合計です。
投資金額 [b]	ご購入された金額の累計です。 ※ 相続等により入出庫があった場合は、入出庫分の購入金額または取得価額に相当する金額が増減されます。
受取金額 [c]	ご解約された金額及び受取分配金額の累計です。 ※ ユニオンファンドは設定来、分配金を出しておりません。
運用損益[a-b+c]	作成日現在の運用損益です。 「運用損益」＝「評価金額合計」－「投資金額」＋「受取金額」

ご不明な点がございましたら、弊社業務管理部（TEL:0263-38-0725）までお問い合わせください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

RISK AND FEE

ユニオンファンドのリスク・手数料

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

申 込 手 数 料 お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。
 ※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

換 金 手 数 料 ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

信 託 財 産 留 保 金 信託財産留保金はありません。

信 託 報 酬 純資産総額に年 0.864%（税抜き 年 0.8%）の率を乗じて得た額です。
 毎日、当ファンドの信託財産より控除されます。
 [*実質的な信託報酬：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3%（概算）]
 *『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券でかかる信託報酬を含めた率です。
 目安であり、組入状況により変動します。

そ の 他 の 費 用 上記のほか、次の手数料・費用等が当ファンドの信託財産より控除されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税等相当額の費用を含みます)
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用(監査費用)(消費税等相当額を含みます)

※ 監査費用は委託会社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。